

PRAEVIDENTIA DAILY (3月6日)

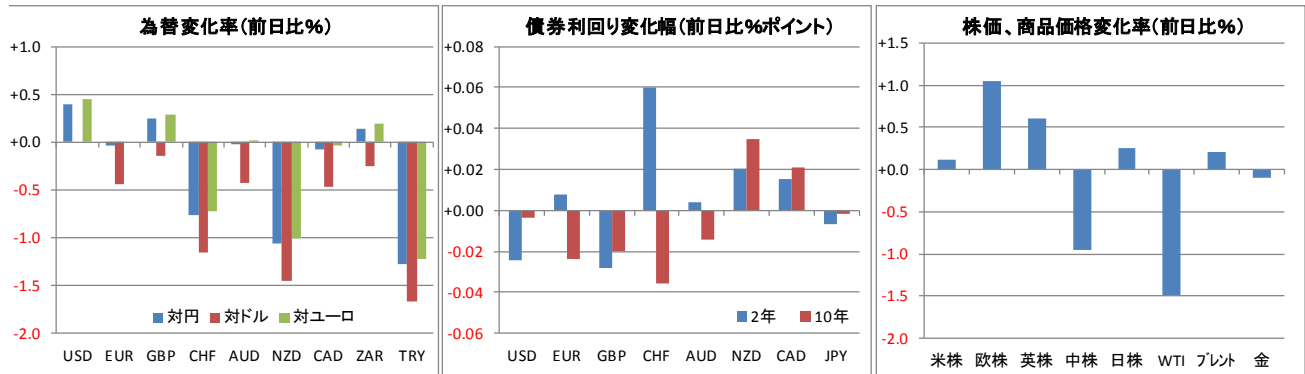
昨日までの世界：ECB 理事会後にユーロが下落

昨日は、ユーロが ECB 政策理事会後に一旦買われる局面もあったが、その後は下落し対ドルで一時 1.0986 ドルと直近安値を更新した。ECB 政策理事会では前回 1 月 22 日の理事会で決定された資産購入プログラムの若干の詳細が公表されたが、特段サプライズはなかった。但し敢えて言えば、インフレ率が中期的な物価安定と整合的と確認できるまで継続するとし、予定されている 2016 年 9 月以降も継続する可能性があることが示唆されたことがユーロ売り材料とみなされたようだ。他方、ECB は四半期ごとの経済予測アップデートで、今年、来年の成長率予想を各々+1.5%、+1.9%へ引き上げたことはユーロ買い材料と言えるが、市場のユーロ買いでの反応は結果として一時的、限定的となった。また Draghi 総裁が現在マイナス 0.2%に設定されている中銀預金金利よりも利回りが低い国債は購入しないと述べたことは、為替相場と連動性が高い 2 年債利回りが同水準を下回っているドイツ国債が購入されずこれ以上マイナス幅が拡大しないことを意味し、この点は今後のユーロ下値を限定する方向に働く可能性がある。

ドル/円は、ユーロ/ドル主導のドル高の影響を受けて、米中長期債利回りの低下にも拘らずじり高となり、一時 120.39 円と 2 月 11 日の 120.48 円に迫る水準へ上昇した。こうした中、ユーロ/円は ECB 政策理事会後に大きく上下したが、結果として前日終値の 132 円台半ばで引けている。

対ユーロ主導でドル高相場となる中、豪ドル、NZ ドルや新興国通貨も対米ドルで下落が続き、トルコリラは対ドルで史上最安値更新が続いた。Erdogan 大統領をはじめとする政府サイドからの中銀に対する過度の利下げ要求が海外投資家から敬遠されたかたちとなっている。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：雇用統計に向けてリラ/円売り

きょうの注目通貨：TRY/JPY ↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
Williams サンフランシスコ連銀総裁発言	13 : 15			ややハト、投票権あり
ドイツ 1月鉱工業生産・前月比	16 : 00	+0.1%	+0.5%	
スイス 2月総合 CPI 前年比	17 : 15	-0.5%	-0.6%	
米 2月非農業部門雇用者数	22 : 30	+25.7 万人	+24.0 万人	
同失業率		5.7%	5.6%	
同平均時給・前月比		+0.5%	+0.2%	
カナダ 1月貿易収支・カナダドル	22 : 30	-6.5 億	-10.0 億	
Fisher ダラス連銀総裁発言	3 : 30			タカ派、投票権なし
<8日>				
中国 2月輸出・前年比		-3.3%	+14.2%	
同輸入		-19.9%	-10.0%	
同貿易収支・米ドル		+600.3 億	+108.0 億	

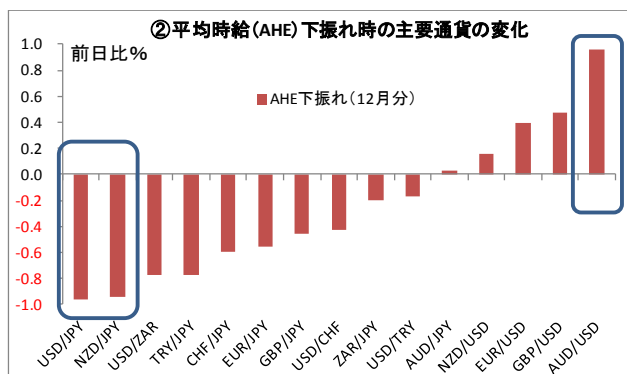
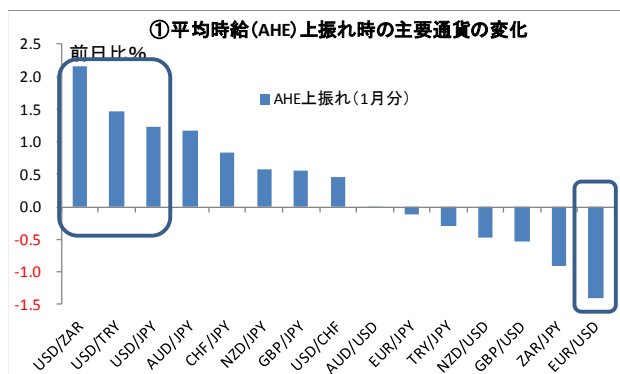
(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

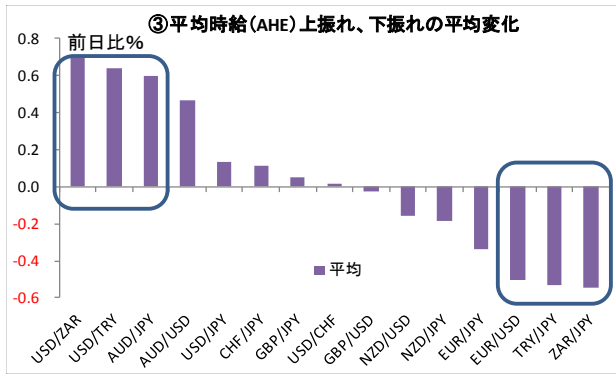
本日は米雇用統計が注目される。Fed の利上げ開始時期との関連では、雇用増と失業率低下がこれまで同様に継続することに加え、平均時給の伸びが続くことも重要となる。今回の平均時給の市場予想は+0.2%と比較的低いことから、上振れのチャンスを意識した展開となりそうだ。その場合、ドル/円は 121 円乗せが視野に入る一方で、平均時給が市場予想を下回り、前月比マイナスとなる場合は再び 119 円台へ反落しよう。

因みに、平均時給 (AHE) の予想比変化への注目度が明確に高まった 12 月分 (予想比下振れでドル安) および 1 月分 (予想比上振れでドル高) の際の主要通貨ペアの変化率をみると (下図を参照)、

- ① 予想比上振れの際はドル/ランド、ドル/リラ、ドル/円の上昇およびユーロ/ドルの下落が大きい、
- ② 予想比下振れの場合はドル/円、NZ ドル/円の下落および豪ドル/米ドルの上昇が大きい、
- ③ 上振れ、下振れ時の平均を取ると、ドル/ランド、ドル/リラおよび豪ドル/円の上昇およびランド/円、リラ/円、ユーロ/ドルの下落が大きい。中でもランド/円、リラ/円はいずれの場合でも下落している

という傾向がある。各々1 回分しかサンプルがないため安定的なパターンかは不明だが、足許の相場状況ではドル高の場合にランドやリラといった新興国通貨が売られ易いこと、ドル安の場合でもランドやリラの上昇は限定的であること、ドル/円は上振れ、下振れに対して非常に対照的に反応していること、が分かる。中では、平均時給が上振れしても下振れしても下落する傾向があるリラ/円の売りに妙味があるかもしれない。





ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641